

令和 7 年 3 月 吉 日
さぎそう学舎
世田谷区立八幡中学校
校 長 山田 勝基

令和6年度学校関係者評価委員会の報告を受けて次年度に向けた改善方策

令和6年度の学校関係者評価について、保護者、地域の皆様にはご協力ありがとうございました。そして、田中委員長をはじめ学校関係者評価委員会の皆様には、何度も学校にお集まりくださり評価を分析して報告書をまとめていただきました。誠にありがとうございました。

丁寧な分析と、本校の教育活動へのとても温かいエールをいただきました。この報告書をもとに、令和7年度の教育課程や学校経営方針を定め、具体的な方策により更に改善した教育活動を進めて参ります。

※ 学校経営方針・教育課程・指導の重点では、本校の教育活動の目標や、さらに細分化した目標と具体的な方策をお示しいたします。教育課程については一部を提示しています。

(1) 学習指導について

引き続き生徒にとってよりよい学習指導を実践していく。強いては「個別最適な学び」に重点を置いた授業を行う。また、学習指導（授業）について、保護者に知ってもらえるような機会を拡充していく。土曜授業が廃止となる令和7年度においては、学校公開期間（年3回）を平日すべての曜日が入るように設定をした。ICT機器の活用については、評価委員会の提言にあるように、蓄積したノウハウを生かし、デジタル教科書や、Team、ロイロノート、キュビナ等の個人タブレットを活用した授業を充実、発展させ教員の授業改善にもつなげていく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・校内研修、学び舎研修会を充実させ、全教員が年間1度は、授業改善のための研究授業を行う
- ・令和6年度に校内と学び舎で設定した共通の研究テーマ「学習の個別最適化」及び昨年のテーマ「PISA型読解力の育成」のより一層の充実を図り、「読む力」「考える力」「表現する力」の育成を、教科横断的に実践する。
- ・すべての教員と生徒がICT機器及びタブレット端末等を活用し、個別最適な学びを提供するための学習指導を実践できるように、校内研修を充実させていく。また、ICT機器を用いたプレゼンテーション能力の育成に努める。
- ・他者の考えに共感し、協働しながら問題解決的な学習の充実を図ることができるよう、管理職や同僚による授業観察と振り返りをとおして授業改善を図っていく。
- ・獲得した知識を活用したり、他の教科等と相互に関連付けたりしながら、課題解決に向けて学びを深めていく学習を推奨する。また他者と協働しながら学習をすすめていく過程を重視することで「せたがや探究的な学び」を推進する。
- ・世田谷区研究指定校「非認知能力の育成」を授業内でも意識し、数値で測れない達成感や充実感を得られるようにする。

（２）生活指導について

学級活動や生徒会、委員会活動、行事の取組を活性化して、生徒の主体性や自己肯定感を育むとともに、「目標に向かって頑張る力」「人とうまく関わる力」「失敗から立ち上がる力」等の「非認知的能力」を育成する。同時に互いに支えあい高めあう学級、学年、学校集団を育て協働的な学びの土壌を拓く。また、現在取り組んでいる「学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）」の実践、構成的グループエンカウンター等により、生徒の社会性や主体性をさらに高めていく。

また、本校の伝統でもある「先輩の姿を見て学ぶ」を大切にする。学年が上がると手本になるという刺激をよい形で体現できるような環境を整備する。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・年間を通して行われる各種ボランティア体験等の異学年交流、地域への貢献、また立青式等の行事をとおして、地域社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ・学級活動、生徒会活動、学校行事の実行委員会等、生徒による自主的な活動を活発にし、生徒の自主性を伸ばし、協力することの大切さを学ばせ、学校への帰属意識を高める。登校が難しい生徒にとっても、学校が一つの居場所になるような別室「ステップルーム」の充実を図る。
- ・自尊感情を高めるとともに、人間関係形成能力を伸長するために、教育相談的手法（エンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等）を、年間を通じて計画的に実践していく。
- ・年間を通して「構成的グループエンカウンター」を実施する。そのための手引きを作成し、円滑かつ計画的に行えるようにする。また、生徒のみならず教員もエンカウンターを体験し、理解を深められるよう、４月当初に専門的な講師を招聘し、校内研修会を実施する。
- ・生徒にルールやきまりについての意義を考えさせる指導を心がける。また、画一的な指導ではなく、対象となる生徒の事情や状況を考慮しながら、その生徒にとって最善の方法で指導していく。失敗を繰り返さないこと、失敗から学ぶことも視野に入れた指導に努める。
- ・教育相談的な手法やSWPBSの手法を用いて、生徒の取組を認める・褒める指導を心がけ、生徒の正義感や規範意識、思いやりのある温かい人間関係を育てる。

（３）学校行事について

生徒、保護者、地域ともに、どの質問項目についても肯定的評価が高く、学校が行事を大切に捉えている表れという評価をいただいている。引き続き地域と一緒に生徒を見守る機会として位置づける。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・学校生活の基盤である学級活動を重視し、行事・生徒会活動などの様々な場面をとおして、学級・学年・学校の一員として多様性を理解し、望ましい人間関係の構築を目指す。集団や社会の一員としての自覚と連帯感を高め、協力して学校生活の充実と発展に努めることのできる質の高い集団づくりに取り組む。
- ・全校校外学習を４月に実施する。４月という様々なことがスタートにあたるこの時期に、あえて全校で行う行事を設定し、生徒の人間関係づくり、より良い集団形成を目指す。

（４）キャリア教育について

保護者への情報発信を引き続き継続するとともに、生徒への情報発信の場として、進路に関する施設の

整備などを考えていく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・世田谷区の「キャリア・未来デザイン教育」を3年間の具体的な全体計画を見直し、生徒が自らの道を切り拓こうとする意欲と知識を身に付けさせる。
- ・キャリア・パスポートの活用を推進する。令和6年度に整備した「八幡中学校版キャリア・パスポート」の一層の充実と活用を進める。小学校からの引継ぎ、また次年度への移行に伴い、キャリア教育で学んだことを計画的・継続的に「キャリア・パスポート」へ記録することで、自己理解を深め、キャリア形成に役立てる。
- ・「キャリア教育」年間指導計画に基づき、ボランティア活動などの勤労奉仕的活動を行い、進んで奉仕する態度や主体的に地域に関わろうとする意識を醸成する。
- ・進路に関する情報提供やガイダンスは1・2年生にも積極的に提供し、生徒の能力・適正や進路指導に基づいて適切に助言や支援を行う。「都立高校による訪問授業」を2年生対象に実施し、進路選択に対する動機付けを図る。これらの取組をとおして、自ら主体的に進路選択ができる能力や態度（キャリアプランニング能力）を育成する。

（５）教職員（先生）について

保護者・生徒から大変高い肯定的評価を得ている。今後も生徒一人ひとりに対して丁寧に話を聞くなどの対応を継続していくとともに、生徒の機微を見逃さないよう、親身な対応を心がけていく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・校内研修をとおして、生徒理解の充実をはかる。また、面談機会を年間で3回設定し、生徒、保護者との信頼関係の構築
- ・1・2年生は2学期に「ふれあい面談」を行う。生徒が話をしたい教員を指名し、自分の話したいテーマで話をすることで人間関係の深化、より安心した学校生活のための相談相手の一端を担える関係性の構築を図る。
- ・特別な支援を要する生徒に対する教育活動の推進に向けて、インクルーシブ教育やユニバーサルデザインの推進をはかる。また、インクルーシブ教育支援員を活用し、特別な支援や配慮が必要な生徒の困り感を減少させるための週単位での計画作成を進める。
- ・スクールカウンセラーや特別支援教室の教諭を交えた校内支援委員会を週に一度設定し、生徒の困り感を共有し、対応についての協議を重ねていく。また、年間2回行われるQ-U調査活用や生活アンケートを効果的に活用し、生徒との信頼関係構築に役立てていく。
- ・教育相談的な手法やSWPBSの手法を用いて、生徒の取組を認める、褒める指導を心がけ、生徒の正義感や規範意識、思いやりのある温かい人間関係を育てる。

（６）全般について

学校生活が楽しく達成感があると感じている割合は、毎年保護者も生徒も非常に高く、充実した学校生活を送っているとの評価について、引き続き生徒の主体性を育む、達成感や帰属感を感じることができる活動を実践していく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・学校の重点目標にもあげられているように、「安心・安全で、成長の喜びのあふれる温かい学校」を目指した教育活動を実践していきます。
- ・学級活動では、学級の生活における組織づくりや諸課題の解決をとおして、望ましい人間関係の構築を図る。また、「総合的な学習の時間」との関連を図りながら、学ぶこと、働くことの大切さに気付かせ、自己の将来の生き方について主体的に考え、適切な進路を選択し、将来の自己実現に向けて前向きに取り組むことができる力を養う。
- ・学級活動、生徒会活動、学校行事の実行委員会等、生徒による自主的な活動を活発にし、生徒の自主性を伸ばし、協力することの大切さを学ばせ、学校への帰属意識を高める。
- ・学校だより、学年だより等を電子配布化する。紙削減の観点、より確実に保護者の手元に届く観点から、5月号発行から実行できるように準備を進める。

（７）部活動について

昨今の様々な事情があるが、学校としてできる範囲の中で最大限できることを実施しとともに、地域の人材など部活支援員の充実を図り、生徒たちの主体性の伸長や達成感・満足感を得られるような活動を実践していく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・部活動支援員や大学生ボランティア、TEAPRO や地域支援本部と連携した人材確保など、外部人材を有効活用し、部活動をはじめとする様々な教育活動の場における教員の負担感をなくしていく。

（８）情報提供について

ホームページや回覧板、保護者はすぐーるなど、様々な機会を通じて広報活動・情報提供に力を注いでいく。その際、情報過多により本当に重要な情報が埋もれることがないように、情報の精査や見せ方などの工夫を考えていく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・保護者・地域の方々との信頼関係を構築するために、公開授業や学校行事・学校だより、学校ホームページなどを通じて、積極的に本校の教育活動を公開する。

（９）学校運営について

学校経営方針や指導の重点やを保護者会などにおいて、保護者にポイントを絞ってわかりやすく伝えていく。

（１０）家庭と学校の連携について

保護者に対するいずれの項目も『否定的評価』が30%前後と昨年度と横ばいの高い水準となった。昨今の環境からなかなか難しい問題ではあると思われるので、PTA と連携を取りながら、できる範囲のなかでできることを小さなことから進めていく。

（１１）地域との連携について

地域と連携した行事が徐々に再開している。地域に育ててもらえる学校として、市域の大学や青少年地区委員会と連携した地域行事を大切にしていく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・生徒会主催のボランティア体験等の異学年交流、また立青式等の行事をとおして、地域社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ・避難所運営訓練や地域と協働で行うボランティア活動をとおして、社会をよりよくすることができることを実感できる体験的な学習を実施する。
- ・地域社会と協働した活動として、九品仏青少年地区委員会主催の「盆踊り」「ウォークラリー」「新春こどもまつり」等の行事にボランティアとして参加し、地域の一員としての自覚をもたせ、ボランティアマインドを醸成する。
- ・生徒が周りと協力しながら課題を解決していく力を育むため、地域の大学生との交流として、特別支援学級の生徒と産業能率大学の学生の定期的な交流を継続、発展させる。

（１２）学校の安全性について

新校舎も完成する予定で、施設面での補強などの効果が出ている。引き続き、防犯・防災に対するきめ細やかな対策を継続していく。

以上